

世界の思想の変化

ここにアメリカ型・欧米型に共通する考えが大きく変更(チェンジ)してきたのではないのでしょうか？

それはアメリカ医師会の成立と権限縮小の流れから見えてきます。

アメリカ医師会の初代会長は医師ではない詐欺師でした。第二次世界大戦のどさくさに紛れ、権力の拡大を思考していた。

戦後、米国医師会は大きな権力を手に入れあらゆる民間療法を駆逐して西洋医学を唯一絶対にしたが、世の中は大きく変わり、薬が効かない難病、奇病が次々に現れた。それまで権力と医療費の拡大と利益優先を図ってきた(TVドラマベンケーシーなどが80年代後半から行政、保険会社等により、その拡大は阻止されブレーキがかかった。民間療法、自然医学療法などの選択肢的受け入れや薬から問診へなど様々な提示を受け入れ、セカンドオピニオンや医師評価チームコーディネーターなどが多数生まれ、過去に戻った訳である。

西洋医学拡大はストップして、今や医療費の半分はそれ以外になった。

Rationalism ラシオナリズムの金儲け主義から経験・実証、観察の **Empiricism** エンピリシズムの経験主義になった。アリストテレス(1+1=2の合理主義)からヒポクラテス(自然から学ぶ経験と実証)に戻ろうとしている訳である。

ちなみに

「**Rationalism** ラシオナリズム、ラッシュヨナリズム、「合理主義」とは、「利益の法則」であり、「損得勘定の思想」であり、「投下した労力に対してそれに相当する利益を得ることである」である、ギリシャ語の **Empeiria** (経験)を語源とする英語の **Empiricism** ではあるが、経験にはいろいろな意味がある。身体的な知覚も経験である。それに加えて科学的な実験・実証の重要性を強要する。ベーコン哲学の価値の一つはそこにあるわけだが、それはニュートン (Isaac Newton, 1642-1727) によって具体的に示された。18世紀の思想家はニュートンが自然科学の分野で証明したことを精神・認知の領域で繰り返したのである。

ジョン・ロック (John Locke, 1632 -1704) は、社会哲学の領域で社会契約論を用いて近代市民社会を基礎づける一方で、イギリス経験論を認識論において確立した。精神・知性 (Mind) は経験 (Experience) によって発達するが、それは知覚 (Sensation)、つまり外界の体験だけでなく、反省・内省 (Reflection) によって培われるものである、とするのがロックの認識論の要綱の一つである。」

現在、本物と偽物が混在しておりますが、日本はまだまだその入り口にさしかかろうとしているだけである。金融のラシオナリズムが破綻の様相を示してきた兆候はまさにラシオナリズムの終焉のそれである。

追記

新型コロナウイルス騒動はラシオナリズムの最後の足掻きに見える。

ご存じのように、日本の武田薬品工業が日本市場の半分を占めていたが、株は奪われ、経営を剥奪されて、解体されている。今や本社、研究所、アリナミンも買収されてしまった。

武田本家の持ち株は1%となり、実質外資系なのです(モデルナのワクチンを作られています)。医薬品市場はことほど左様に斜陽市場となっているのです。そこで、医薬と医薬外の境界線に目をつけ、ワクチン市場の開拓へと走っていますが、所詮は本業不振からです。というよりそもそも必要がありません。次は現代医療の崩壊か衰退でしょう。長年のイタリア医療のリストラにて、新型コロナで大騒ぎになったのは去年の話です。アメリカ合衆国の病院数は5000、日本は9000ということは半分は知らない計算です。医療崩壊が叫ばれていますが、37万民間ベットが余っている歪な状況です。新型コロナが指定感染症2類である限り2類の病院は1人の患者に2名の看護師が必要であり、民間の患者13人に1名の看護師とはならない。この歪を放置しつづけると公的・公立病院は閉鎖か縮小しかありません。厚労省が5類に変更する検討をしているのは期限が来年2月末だからです(3回目の延長は無理です)。どちらにしても病院、特に公立はすべて赤字、民間も8割赤字という状況ですから、利害など捨てさっさとすれば良いのにできないのです。コロナ騒動で儲ける者がいるという情けない話です。ここでもラシオナリズムの最後の足掻きのような状況です。すでにエンピリシズムの時代に入っているのです。自然から学ぶということです。頭が悪いのが上層にいたので、悪あがきをしています。

今回の総選挙にWHOの第74回WHA(世界保健総会)決めごと(保険を通じて伝統・補完医療を進める政策)を提示して、ラシオナリズムからすでにエンピリシズムの時代に入っている事を認識してもらいたいと思います。

金子正則